



懇親会に参加された皆さんは、ふるさと旭川の大自然や新しい動きを共通の話題に楽しい時間を過ごされたことでしょう。

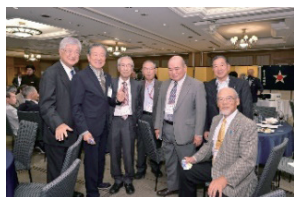


▲荒川繁会長に旭川観光大使委嘱式

▶荒川会長挨拶



◀福居秀雄旭川市議会議長の乾杯のご発声で懇親会が開始されました。



▲梶井副市長のご挨拶

▼抽選会の様子



▲最後に全員がステージ前に集合し記念写真を撮影しお開きとなりました。

講演録

映画監督
菅原 浩志さん

お話は映画の抜粋の上映を交えて、映画作成にまつわる業界内の反応、俳優の人選や撮影現場での苦労などの様々な事柄や私たち旭川出身者も知っていたであろう知らないアイヌ文化や大自然との関わり方などが詰った心打つものでした。

『カムイのうた』
北海道の氷が溶けたら
何になる
<https://kamuinouta.jp//>

映画監督はどんな仕事をするのかシナリオを監督も書きまします。形容詞を使うと「優しいほえみ」とか、「美しい山並み」ですが、読むスタッフによって「美しい」「優しい」は違うので、一切、形容詞を使わずに脚本は書かなくちゃいけない。

脚本というのは、設計図であり戦略の本。1000頁で、2〜3時間の映画が出来上がります。カメラは大砲と言われます。



左から、望月歩さん(一三四役)、
吉田美月喜さん(テル役)、
菅原浩志監督



設計図や戦略図、大砲があれば、映画の現場は戦場です。カメラマン、照明技師、美術監督、衣装、メイクなど30数種類の職人たちが集まり一本の映画を作ります。大体、朝7時に集合しロケ地に行く。22時に家に帰り、翌朝6時出発。50名から100名のスタッフが動き、役者がいれば150名、エキストラがいれば200〜300名位が動く。1日18時間労働で、映画に残るのは2分から3分。

今日はその映画を少しご覧になっていただきます。

知里幸恵さんというアイヌの女性が、1903年に登別で生まれました。6歳で旭川に引っ越します。第5尋常小学校にアイヌの子供たちだけが集められ、アイヌ語を話しちゃいけない、お前たちは日本人になるために日本語を勉強せよと。彼女は13歳の時に、北海道庁立旭川高等女学校の試験を受け、非常に優秀な成績にも関わらず不合格になります。

理由は、その学校には第7師団の軍人の子供や、役所の子供



が通っているのです、アイヌの入学が認められなかったのです。翌年、彼女は旭川区立女子職業学校に、見事受験で合格します。彼女がアイヌとして初めて、女子職業学校に入る登校日のシーンをご覧ください。

知里さんが残したものは、アイヌ神謡集というユーカラを日本語に訳した本と、彼女の手紙や日記だけでした。我々は撮影のためにアイヌのことを調べ始めました。



アットウシというアイヌ文様の着物を着ている記念写真があります。アットウシは木の皮を剥ぎ、ナメしに何ヶ月もかかって作る貴重な着物です。普段は何を着ていたのか、アイヌの人に聞きに行くところ「アイヌではないお前に何がわかる」と言われました。

東京の芸能事務所に出演交渉をすると、「アイヌに関する映画に役者は出しません」と出演拒否。若者を集めたオーディションでは「もうアイヌは嫌だ、和人になりたい」というセリフを若者たちは「もうアイヌは嫌だ、カズヒトになりたい」と言う。今の若者は、和人という言葉を知らない。映画の企画を知った放送局は、かつて研究という名の下で学者達がアイヌの墓

から埋蔵品を持って行った事実について、「本当にそれを映画にするんですか？」と聞いてきました。

ある日、オーディション会場に1人の男性が来ました。実は登別に知里幸恵さんの記念碑や記念館がありますが、彼女の人生の3分の2は旭川で過ごしている。だから知里さんの姪御さんが、旭川にも記念館などを残してほしいということで、男性に分骨を託されたのです。突然で驚きましたがお預かりし、知里さんの遺骨を机の上に置いてシナリオを書き、撮影現場や映画の編集室にもお連れし、出来上がった映画を一番いい席に座って観ていただきました。19歳で亡くなった知里さんが、もう一度スクリーンに蘇って、命を吹き返してもらいたいと思ったからです。

北海道のオーディションでは、アイヌの方が映画に出たいと来られたんです。彼は母親から「映画に出るな、お前が映画に出ると、アイヌだとわかって親戚に迷惑をかける」と言われました。彼の役は、吹雪の中でニシンを船から陸に運ぶ強制労働のシーンです。私は彼に本物の髪と髭で撮影させて欲しいとお願いしました。

彼は一年中母親に「映画に出るな」と言われながら、髪と髭を1年間伸ばしてくれました。その強制労働のシーンをご覧ください。撮影した場所は増毛町の海岸、去年の1月、寒波の嵐

でマイナス25℃でした。



プロデューサーは、低体温症になって役者が倒れたらどうする！と反対したんです。私はマイナス25℃で、アイヌが強制労働させられた場所に行き、我々自身が肌で感じる必要があると思って撮影しました。

私が映画で訴えたかったのは、アイヌが過去に受けた仕打ちや差別だけでなく、アイヌには素晴らしい文化があることを知って欲しかった。映画の中で女の子がお茶をこぼすと、床の神様は喉が乾いていたんだねというシーンがあります。全てに神が宿り、全てを敬う北海道の素晴らしいアイヌ文化。地名も興部とか長万部とか、旭川、札幌、日暮里もアイヌ語で、砂利の多い荒れる川などの意味があったが、和人が漢字に当てはめアイヌ文化を上塗りした。

氷が溶けたら何になる。

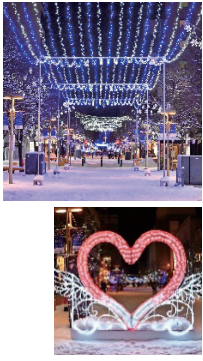
小学校の先生が、子供たちに氷が溶けたら何になる？と聞いたんです。子供たちは氷が溶けたら水になると答えた。そこにアイヌの子が1人いて、「氷が解けたら春になる」と言ったんです。素晴らしいこの文化を、北海道を大切にしていきたいと思っています。(終)

旭川市のトピックス

あさひかわ街あかり
イルミネーション

旭川の冬空を彩る定番のイベント「あさひかわ街あかりイルミネーション」が今年も2024年11月30日から2025年3月9日まで開催されました。

11月30日に平和通買物公園で行われた点灯式では旭川南高校ダンス部によるスペシャルパフォーマンスも披露され来場者全員のカウントダウンがおこなわれました。今回は過去最大級となる23万球が旭川の中心街にきらめき、市民をはじめ観光客など多くの人々を楽しませてくれました。



◀イルミネーションの一部
旭川の中心部である平和通買物公園、緑橋通、昭和通、7条緑道、常盤ロータリーの5つのエリアで行われました。
写真は公式ホームページより引用

北海道音楽大行進

昨年6月8日に92回目となる北海道音楽大行進が開催されました。晴天のもと北海道の初夏を彩るマーチングバンドに81



▲北海道音楽大行進の一コマ
当日は行進のあと買物公園、市民文化会館にてアフターコンサートも行われました。
写真は旭川観光コンベンション協会サイトから引用

あさひかわ
デザインウィーク

団体2800名が参加し旭川の中心街を行進しました。沿道は約11万人もの観客にあふれ盛大に行われました。



ASAHIKAWA DESIGN WEEK 2024
2024.6.15日~23日

▲写真は公式サイトより引用

旭川市がユネスコ創造都市ネットワークのデザイン分野で認定されてから五年となる昨年6月15日から23日の九日間「あさひかわデザインウィーク2024」が開催されました。家具やクラフト、建築、機械金属、食や観光など「ものづくりのまち」ならではのデザインのイベントで、より多くのモノ・コトとのコラボレーションを楽しめるイベントとなりました。

北の恵み 食べマルシェ

1980年に旭川・神居・永山の3村がおかれてから120年となることを記念して2010年に開催されたのが始まりです。2011年からは毎年9月に開催されており、昨年は9月14日から16日の三日間で開催され約88万人が訪れました。



今では北海道で秋に開催されている「さっぽろオータムフェスタ」、「はこだてグルメサカス」、「とかちマルシェ」とともに四大グルメイベントの一つとなっており、昨年は各会場を結びスタンプラリーも行われました。

スノボ竹内選手が
スイス名誉領事に就任

スイスを拠点に活躍しているスノーボードの竹内智香選手が昨年スイス名誉領事に任命されました。在東川（北海道）スイス名誉領事館は竹内さんのご実家である湧駒荘におかれ5月10日には開所式が行われました。竹内さんは、お世話になったスイスと日本、両国への恩返しをしていきたいと抱負を語っています。またスイスのアンドレア

ス・バオム駐日大使は両国の真の懸け橋として名誉領事としての活躍に期待を込めました。



▲名誉領事任命式典の様子
在日スイス大使館公式サイトより引用

旭川東高校山岳部
全国大会で
男子優勝、女子準優勝

昨年8月に福岡と大分両県にまたがる地域で開催されたインターハイの登山競技で男子は優勝、女子は準優勝という快挙を達成しました。一昨年の男女ともに12位からの大躍進。一昨年の反省からミスによる減点を最小にとどめる努力と体力づくりに努めたことが大きな結果につながりました。これをたたえインターハイ報告会及び祝勝会が10月6日に開催され現役部員はもちろんOB、OG、歴代の先生方が集まりました。



▲旭川東高校山岳部の方々
北海道新聞ホームページより引用

旭川ビースターズと
カスンバ選手

旭川市と周辺8町による、地域密着型の独立リーグの野球チームとして旭川ビースターズが2023年に発足しました。このビースターズには、大谷選手も注目するSNSでも話題沸騰のウガンダ出身の野球青年デニス・カスンバ選手が2024年に加入しました。野球の練習環境が十分ではないアフリカ・ウガンダからメジャーリーグを目指しているカスンバ選手はその独特の練習風景をSNSに投稿したところ大きな話題となり大谷選手もフォローしています。カスンバ選手、及び旭川ビースターズの今後の活躍が楽しみです。

◀カスンバ選手と練習風景

北海道文化放送ホームページより引用



LOGO
チームロゴ



▲旭川ビースターズのチームロゴ

「第一回金魚すくい甲子園」

昨年9月22日に選手層のすそ野を広げるとともにレベルアップを目指し、さらに新たな目玉とすべく、旭川市で金魚すくい甲子園が開かれました。対象は小学生から18歳までの児童生徒、学校ごとに3名でチームを組み団体戦と個人戦をトーナメント方式で実施。近隣市町の小学校から高校までの9校10チームが参加しました。初代王者は鷹栖小学校、2位には近文小学校、3位は忠和中学校、4位はクラーク国際記念高校でした。



▲大会の様子
鷹栖小チームは決勝では3人で136匹をすくい優勝。
北海道新聞社ホームページより引用

旭川の2高校 放送全国大会で快挙

第48回全国高等学校総合文化祭総文祭で旭川永嶺高校がビデオメッセージ部門で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞しました。総文祭は全国の高校生による芸術文化活動の祭典で文化部のインターハイです。また第71回NHK杯全国高校放送コンテストで旭川東高校がラジオドキュメント部門で準優勝を果たしました。ちなみに優勝は札幌手稲高校で北海道勢が1位、2位の結果でした。

NHKのどじまんが 開催されました

旭川市民文化会館の開館50周年を記念して開催され昨年11月10日に全国生放送されました。前日に行われた予選会には200組が自慢のものを披露。その中から約20組が本番に臨みました。

あさひかわ菓子博が 開催されます

全国のお菓子が一堂に集まる「全国菓子大博覧会」が今年旭川市で「あさひかわ菓子博2025」として開催されます。期間は2025年5月30日から6月15日までの17日間。旭川大雪アリーナ、道の駅あさひかわ旭川市大雪クリスタルホールを会場として行われます。



▲北海道庁ホームページより引用

北海道の魅力を表現し、「お菓子があるところに笑顔が広がる、わくわく感が加速する」を目指し準備が進められています。

北口榛花選手 おめでとーございます！

昨年、パリで行われたオリンピックでは決勝の一投目で65m80をマークし見事金メダルを獲得。閉会式では旗手も務めました。

また陸上の世界最高峰の大会であるダイヤモンドリーグの年間上位選手のみが出場できる最終戦であるファイナルでも優勝し見事二連覇を達成。パリオリンピックに次ぐ快挙でした。ファイナルでの日本選手の優勝は北口選手のみです。

昨年10月には郷土旭川で凱旋パレードが行われ4万8千人もの人が沿道に集まり盛大に祝福しました。

昨年末の「アスレティック・ス・アワード2024」では栄えあるアスリート・オブ・ザ・イヤーに二年連続で輝きました。また今年1月に行われた2024年に最も活躍したプロのスポーツ選手や団体に贈られる日本スポーツ大賞の最高賞である大賞に選ばれるなど数々の



▲パリオリンピック 北口選手のXより引用



▲旭川で行われた凱旋パレード
旭川市より提供



▲上：日本スポーツ大賞、左上：道民栄誉賞、左下：旭川市民栄誉賞がそれぞれ贈られました
上：北海道新聞ホームページより、左上：北海道庁ホームページより引用、左下：旭川市より提供

賞を受賞。表彰式ラッシュの年でした。またテレビ番組やコマーシャルにもたびたび登場しています。

2024年は大活躍の北口選手は、すでに気持ちも切り替え新たな目標に向かっていきます。今年は東京で世界陸上が開催されます。北口選手の益々の活躍がたのしみです。皆さんで大いに応援しましょう。

東京旭川会の活動を 報告します

東京旭川会では会員相互の懇親を深めることを目的に様々な活動を行っています。2024年は、北海道ふるさと会連合会の新年交礼会や北海道産直フェア他の行事に参加。また比較的古い世代の旭川出身者が集まる関東あさひかわ人街の方々と交流。6月には東京旭川会幹部が旭川市を訪れ地元企業の方々や市職員の方々や懇談や懇親を実施しました。

パリ五輪が近づいてきた7月6日には旭川大雪圏東京事務所、関東あさひかわ人街の方々と合同で約40名が国立競技場に集合し、パリオリンピックに出場する旭川出身のアスリートである町田瑠唯選手、北口榛花選手の応援動画を撮影し、それぞれのSNSから発信しました。

今年は、6月のあさひかわ菓子博の開催に合わせて郷土訪問の旅を実施するなど様々な活動を行っていますのでふるってご参加をお願いします。



▲国立競技場前での応援の一コマ



▲関東あさひかわ人街の方々と交流の一コマ

英語学習リミック

英語学習における「つまづき」を解消する専門家
イングリッシュ・ドクター® 西澤ロイ

新チャンネル
始めます

本誌読者プレゼントは
 コチラをクリック

非常に識な英語学
 Roy's English Lesson



https://www.youtube.com/@englishdoctor_roy

「イングリッシュ・ドクター®」(英語学習のやさしいお医者さん) 英語ニガテ病をなおす第一人者TOEIC満点(990点、英検4級。獨協大学英語学科卒業、言語学専攻。米ジョージア州に1年間の留学経験あり。

北海道(旭川)出身(9才まで)。現在は福岡(糸島)と千葉の二拠点生活中。著書は「頑張らない英語」シリーズ他、紙の書籍は計11冊で累計17万部を突破。

YouTubeチャンネル「非常識な英語学」が登録者約4万7千人で好評を博しています。

西澤ロイさん

昨年の懇親会では、ステージから次の3人の方に発表していただきました。

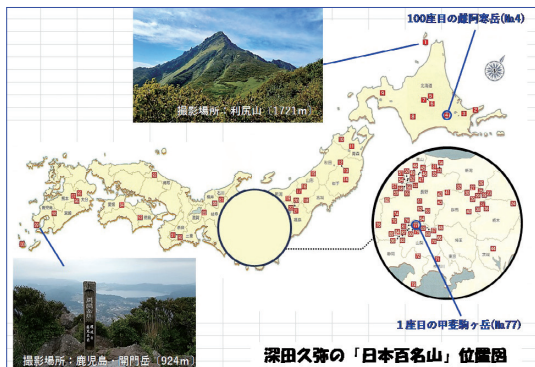
私(達)こんな活動をしています。



山原正博さん

深田久弥の「日本百名山」の頂きを目指して!!

私の登山は、ある日、同僚からの誘いで標高2967mの甲斐駒ヶ岳に登ったのが最初で、その後も、北岳やハケ岳等にも登りました。その後も、年に数回富士山をはじめ、北アルプスや関東周辺の山を登っていました。平成26年、友人から「日本百名山」への誘いがあり、挑戦することを決めて今日に至っています。



「日本百名山」とは、明治36年、石川県生まれの随筆家で登山家の深田久弥が山岳随筆で、日本各地の山を自ら登り、その中か

ら100座を、自己が定めた基準で選定した日本が誇る名峰の事です。

北海道には、「日本百名山」は9座あります。

平成26年から始めた「百名山」は令和5年末までに累計で94座になりました。



令和6年は、九州の阿蘇山・九重山・祖母山に登り、道東三山の羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳の予定でしたが、最後の雌阿寒岳の登山口から1時間ほど登った登山道に、親子のヒグマが出たため下山し、「日本百名山」達成は叶いませんでした。

今後の目標は、今年、雌阿寒岳に登り、100座目の頂に立つ事と、健康と怪我に留意して登山を続けて行く事です。頑張ります。

早坂克孝さん

中山道540kmを4年かけて、喜寿を迎え完歩しました。

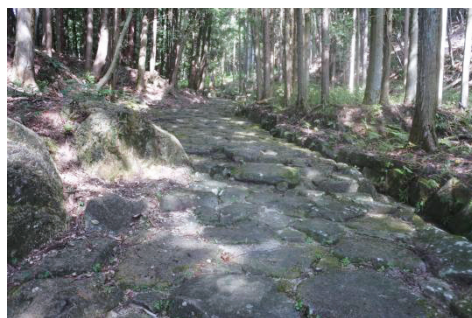
当麻町生まれ78歳東高15期。70歳を過ぎてから、学生時代の友人と街道歩きを始めました。川越街道・児玉往還・北国街道(善光寺街道)等を歩き、信州の景色と古い街並みに魅了され、当初は友人と二人で信州(信濃の國)の中山道(軽井沢宿・馬籠宿まで)を歩く計画でした。



▲奈良井宿

その後、信州の中山道(軽井沢・馬籠宿)に、日本橋から軽井沢が加わり、友人の怪我で一人旅になってから更に終点までの挑戦が始まりました。

特に岐阜は、木曾路より厳しく険しい峠が多く、心が折れそうになりました。滋賀に入ると、お城・お寺等名所が多く足を延ばして観光を楽しみながら歩くことが出来ました。



▲琵琶峠の石畳

琵琶湖が近くなってくると、京都まであと少し、力が湧いてきました。京三条大橋が見えてきたときは、「やったー」と思わず叫びました。

この年齢になって大きな挑戦でした。



▲ゴール! (京都三条大橋)

旭川出身者の活躍

懇親会場内の壁新聞では次の方々も紹介しました。

元AKB・坂口渚沙さん

観光大使を務める旭川市訪問故郷へ思い、今後の活躍誓う

旭川観光大使を務めるタレントの元AKB 坂口さん(22)が旭川市役所を訪れ、故郷の旭川への思いを振り返り、今後の活躍を誓いました。

昨年は、新庁舎開庁の様子を自身のYouTubeで紹介する撮影のため市役所を訪問し、「東京では心が忙しいが、旭川に帰り景色を見ると落ち着く。水もおいしい」と笑顔で語り「これからアイドル第二章。心を動かすパフォーマンスができるようになりたい」と誓いました。今津寛介市長は「旭川の魅力を発信してほしい。疲れたら旭川に帰ってきてラーメンを食べて元気を出して」と話しました。

杉村太蔵さん

旭川・買物公園商店街理事長に「創業支援進める」

元衆院議員でタレントの杉村太蔵さん(44)が、市中心部にある旭川平和通買物公園の店舗でつくる「旭川平和通商店街振興組合」(58店舗加盟)の新理事長に選ばれました。3日に商店街を訪れ、「商店街で新規創業

の支援とインバウンド(訪日客)の誘客を進めたい」と語りました。理事長の任期満了に伴い、5月29日の理事会で選ばれました。任期は2年間。杉村さんは旭川市出身で、買物公園で商業施設「旭川はれて屋台村」を経営しています。

商店街の活性化へ若い世代の参画を期待する声があり、理事会で全会一致で選出されました。

藤本壮介さん

旭川市政アドバイザーを委嘱

大阪・関西万博会場のシンボル、世界最大級の本造建築「リング」の設計・監修をされている藤本壮介さん(旭川東高出身)が昨年8月、旭川市政アドバイザーに就任しました。今後、まちづくり全般についてアドバイスをいただきます。

藤本さんは、東神楽町に生まれ、子供時代実家にあったアントニオ・ガウディの写真をみて衝撃を受ける。建築家の道に進み、今日まで日本建築大賞、J・A新人賞など多数受賞。



高橋健介さん

フットサル日本代表監督に就任



2024年7月18日、日本サッカー協会(JFA)は、フットサル日本代表の監督にコーチを務めていた旭川市生まれで元日本代表選手の高橋健介氏(1982年5月、旭川実業高等学校卒、順天堂大学卒、42歳)が就任することを発表しました。

高橋健介監督は2017年からバルドラール浦安で監督を、18年にはフットサルインドネシア代表監督(男子代表、女子代表、U20代表兼任)を歴任。22年からはフットサル日本代表とU20フットサル日本代表のコーチを務めていました。フットサルの日本代表は昨年9月13日、高橋健介監督が就任後、初の練習を千葉市内で行いました。高橋監督は今年のワールドカップ(W杯)出場を逃したチームの再建を託され、次回28年大会でベスト8入りを狙います。

壁新聞では、以上の方々他に、金平茂紀さん(ジャーナリスト) 米澤美玖さん(サクソフオーン奏者)、かねきよ勝則さん(お笑い芸人)、佐藤みきさん(画家・イラストレーター)を紹介しました。

北の富士さんを悼む



NHKの元大相撲解説者・元横綱の北の富士勝昭(本名・竹沢勝昭)さんが昨年11月12日逝去されました。

北の富士さんは、ご存知のとおり旭川市のご出身で当会の懇親会に何度もご出席いただきました。お会いしてあの明るい気さくなお人柄に魅了された方々は多いと思います。特に2015年の10月の東京旭川会総会で当時読売テレビ



▲特別対談の様子(「ななかまど」36号に掲載)

ビ(日本テレビ系)の「ウエークアップ」などの司会をされていた旭川観光大使でもある岩田公雄さんとの「特別対談」が思い出されます。この対談は、学生時代から50年を超える交流がある当会の役員の縁もあり実現しました。

長年のご厚誼に感謝申し上げますとともに心からご冥福をお祈りします。



▲懇親会で参加者と記念写真に収まる北の富士さん



東京旭川会
ホームページ
「ななかまど」36号

ななかまど 45号 2025.3